

学校法人峯徳学園
川口短期大学
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

川口短期大学の概要

設置者	学校法人 峯徳学園
理事長名	峯岸 進
学長名	峯岸 進
ALO	蜂巢 泉
開設年月日	昭和62年4月1日
所在地	埼玉県川口市大字木曾呂1511

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
ビジネス実務学科		140
こども学科		150
	合計	290

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

川口短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成23年3月24日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成21年7月23日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

「知」、「徳」、「技」の三つの徳目を建学の精神・教育理念として掲げ、教育的・目標も確立している。教育目的・目標は学則に学科ごとに明記し、大学案内やウェブサイト等にも掲載され周知を図っている。

教育目的に基づき、教養科目を配置し、学科の専門性を考慮した教育課程が編成され、授業形態のバランスも適切である。学生による授業評価、学長を委員長とするFD委員会活動、専任教員間での情報交換会、兼任教員とのカリキュラムに関する勉強会など、教育力向上に向けた取り組みが積極的に実施されている。

専任教員は短期大学教員としてふさわしい資格と資質を有している。校地・校舎面積とも短期大学設置基準を充足し、併設大学との共同施設も効率的に活用している。

学生の単位取得状況はおおむね良好であり、学生による授業評価を授業改善に生かす努力をしている。資格取得支援の取り組みは熱心で、取得率も高い。

学生の多様化に対応するため、専任教員による時間外個別指導や習熟度別クラス編成にするなどの配慮がされている。併設大学と合同でキャリアセンター、エクステンションセンター、教員・保育士養成支援センターが設置され、学生のキャリア支援が活発に展開されている。こども学科の専門就職率は高い。

教員は研究活動を積極的に展開し、科学研究費補助金を初めとする外部資金の調達も年々増加している。また十分な研究日（出校日週3日）が確保され、勤続年数が5年以上の教員には、1年間の調査研究期間を付与する「教員特別研修」制度を設け、教員の研究活動を奨励・支援している。

学生の社会的活動を、建学の精神や教育方針に沿った重要な活動と位置付け、ビジネス実務学科では「ボランティア論」を教育課程に組み込んでいる。

理事長（学長兼務）が強いリーダーシップを発揮し、理事会・評議員会など堅実に運営されている。また、当該短期大学の主要な会議にも学長が出席し、力強く当該短期大学が運営されている。毎日の朝礼実施など自己啓発促進にも意欲的である。

短期大学部門の収支バランスに課題はあるが、年々改善傾向にあり、学校法人全体

の財務体質はおおむね健全である。財政状態をよく掌握し、こども学科を開設するなど、経営努力が行われている。

自己点検・評価及び第三者評価受審を重要なものとして位置付け、2年に1回、自己点検・評価の実施を規定している。そうした評価結果を真摯に受け止め当該短期大学の改善向上につなげたいという意欲がみられる。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育力向上を期待して、専任教員間での情報交換会や兼任教員とのカリキュラムに関する勉強会を実施している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- ビジネス実務学科では、学生全員にノートパソコンを保有させ、無線 LAN 設備により授業や就職活動などに日常的にパソコンを使用できる環境が整えられ、学生のスキルアップやモチベーションの向上が図られている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 「学生による授業評価」の結果について、担当教員がコメントを記し報告書にまとめて全教員に配布し、学生の閲覧も可能としている。
- 学生が成績について疑問を抱いた場合には、教員から文書による説明を求めることができる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 無利子で年額 60 万円が貸与される独自の奨学金制度(峯岸進奨学金)が設置され、修学成就のための積極的・経済的な支援が行われている。

評価領域Ⅵ 研究

- 教員は毎年着実に単行本や論文等の研究業績を蓄積し、『川口短大紀要』への積極寄稿、科学研究費補助金等の外部資金の獲得も実績をあげるなど、学長のリーダーシップの下で研究活動が活発に行われている。
- 勤続年数が5年以上の教員には、1年間の調査研究期間を付与する「教員特別研修」制度が設けられており、教員の意欲向上と集中して研究できる機会が設けられている。

評価領域Ⅶ 管理運営

- 学長自らも出席する、事務職員の毎日の朝礼が実施され、精力的に事務職員の自己啓発・意欲喚起に取り組んでいる。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標はすべての学園教育研究活動の基盤であり、学生の多様化が進行している中、修学成就を期待して、教職員・学生への確かな共有・定着に向けた組織的な議論、具体的な取り組みが期待される。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 授業の欠席が多い学生への対応をきめ細かく実施するなど、退学者減少のために一層の努力が望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- ビジネス実務学科においては、専門職の就職率が低調で、かつ全体の就職率も低くなってきており、就職状況好転へ向けた一層の創意工夫・実践が期待される。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 授業科目の単位計算方法、教員の個人研究費、資産運用等に関する規程の整備が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金はあるものの、短期大学部門の収支バランスに課題があるので、改善が望まれる。
- 退職給与規程があるので、学校法人会計基準に準拠し、貸借対照表の固定負債へ

退職給与引当金の計上を検討されたい。

- 避難訓練を実施していないので、学生を含めた組織的避難訓練の早期実施が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「知」、「徳」、「技」の三つの徳目を「建学の精神・教育理念」として掲げ、学内外に確実に発信している。学生の多様化などに対し質の高い教育力が求められている今、一層の浸透・定着に向けた創意工夫が求められる。

教育目的・目標は学則に学科ごとに明記され、大学案内やウェブサイト等にも掲載され周知を図っている。また、『規則集』・『学生便覧』などにも掲載し、入学前ガイダンスや4月当初の新入生ガイダンスにおいて周知徹底を図り、2年生に対しても年度当初のガイダンスを通して、当該学科の目的・目標の浸透に努力している。これらを学生に確かに伝えるためには、まず教職員による共有・定着推進が肝要であり、そのために建学の精神や教育目的そのものの定期的かつ組織的な確認・点検作業が望まれる。また、学生への一層の共有・定着を促進するための組織的な取り組みの工夫・充実が期待される。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神や教育目的に基づき、教養教育科目を配置しつつ、各学科の専門性を考慮した教育課程が編成されている。単位認定と評価もおおむね適切に行われている。

ビジネス実務学科は5コース編成で、十分な数の選択科目が用意され、習熟度別クラス編成や少人数でのゼミナールなど、学生の多様なニーズにこたえている。こども学科では、保育士資格・幼稚園教諭二種免許状・ベビーシッター資格に加え、小学校教諭二種免許状も取得できる。各学科の卒業要件は68単位であり、教育目的に合わせ授業形態のバランスも適切である。

講義要項には授業目標・授業概要・授業計画・使用教科書名・評価方法が記載されている。学生による授業評価、学長を委員長とする FD 委員会活動、専任教員間での情報交換会、兼任教員との「カリキュラムに関する勉強会」など、教育力向上に向けた取り組みが積極的に実施されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

ビジネス実務学科には 8 人、こども学科には 14 人の専任教員が配置され、短期大学設置基準を充足している。年齢構成はバランスが取れている。教員は短期大学の教員としてふさわしい資格と資質を有し、役割・責任を十分に果たしている。

校地及び校舎の面積は短期大学設置基準を充足しており、併設大学との共同施設も効率的に活用し、ゼミ室・ピアノ個人レッスン室など講義室・演習室等の教室、設備も十分に用意されている。また、ビジネス実務学科では学生のノートパソコンの所持を義務付け、無線 LAN 設備を普通教室に整備し、日常的な IT 活用教育の工夫がされ学生にも好評である。

情報メディアセンター（図書館）では、蔵書、閲覧座席は十分な数を有している。図書購入予算が十分に確保され、サービス体制も整っている。しかし、情報メディアセンターツアー実施などの努力がされているが、学生のセンター利用は活発とはいえないので、より一層の利用促進を図ることが望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

各授業の単位認定方法は適切である。不可の割合が高い科目が一部にみられるが、担当教員及びチューターの指導により、当該短期大学全体ではおおむね良好な単位取得状況になっている。学生による授業評価を授業改善に生かす努力をしている。年度によっては退学者が多い。平成 20 年 6 月に「中途退学者減少対策プロジェクト」を立ち上げ、「初年次教育について」をまとめるなどの対策を講じているが、授業出席調査をきめ細かく行うなど一層の努力が必要である。資格取得支援の取り組みは熱心で、取得率も高い。編入学実績もある。こども学科の専門就職率については高く評価できる。

卒業生の就職先からの単発的な情報収集は行われているが、組織的な意見聴取はまだ行われていない。また、同窓会との連携強化を図ろうとしているが、卒業生の組織的なアンケート調査は実施されていないため、今後の取り組みが期待される。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学前にはガイダンス及び学習到達度調査、入学時には前期総合ガイダンスが行われ、有意義な学生生活を送る支援体制が構築されている。また後期ガイダンスでは、資格取得、学生生活、履修状況等についてきめ細かく指導されている。

学生の多様化に柔軟に対応するため、専任教員による時間外個別指導（ピアノなど）

や「基礎力養成Ⅰ・Ⅱ」の授業科目、特待生制度（学習意欲向上）を設け、また基礎英語や情報処理演習は習熟度別クラス編成にするなどの配慮がされている。

チューター制度及びオフィス・アワーを設け、ゼミ担当やクラス担当教員による学生相談体制がとられている。また、当該短期大学独自の奨学金制度「峯岸進奨学金」により経済的支援にも配慮している。

併設大学との合同利用で、学生支援のためのキャリアセンター、エクステンションセンター、教員・保育士養成支援センターの設置による就職支援及び資格取得支援、各種検定試験講座が開講され、学生のキャリア支援が活発に展開されている。こども学科では専門就職率が高いが、ビジネス実務学科では就職状況の改善が望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

教員は研究活動を積極的に展開しており、全学的に研究を奨励・促進している。科学研究費補助金を初めとする外部資金の獲得も年々増加し評価できる。また、こども学科では、全教員が共同研究に参加して、平成 21 年度に論集『まなざしの保育理論と実践—一人ひとりへの温かいまなざし—』を刊行、成果をあげた。こうした共同研究を今後も継続することを期待する。

教員の研究経費は十分な額が支給され、全教員に個人研究室も用意されており、研究を行うための環境が整備されている。学内研究誌『川口短大紀要』が年 1 回発行され、教員の研究成果を発表する機会も確保されている。また、教員には十分な研究日（出校日週 3 日）が確保され、「教員特別研修」制度（1 年間の調査研究期間付与）も設けられていて、教員の研究活動を積極的に支援している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

社会人の受け入れ実績はほとんどないが、地域連携の公開講座は積極的に実施している。

学生の社会的活動を建学の精神や教育方針に沿った重要な活動と位置付け、ビジネス実務学科では「ボランティア論」を教育課程に組み込んでいる。地方公共団体からのボランティア要請に対しては学内で周知・募集している。

海外教育機関等の密接な双方向的交流は行われていないが、カナダのダグラス・カレッジと協定を締結し、学生の短期留学を実施している。また、一部の教員ではあるが、海外学会に活発に参加している。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長（学長兼務）が強いリーダーシップを発揮、理事会は寄附行為の規定に基づいた運営が行われ、諮問機関として法人経営健全化検討委員会も設置し重要事項の協議を行うなど、理事会は当該学校法人の意思決定機関として適切に機能している。評議員会は理事会の諮問機関として寄附行為に規定する内容が審議されており、出席率

も良好で適切に運営されている。監事は毎回評議員会及び理事会に出席し適切に学校法人業務の監査を行っている。

教授会は学則及び教授会規則により、教育研究上の審議機関として適切に運営されている。また教授会から役割が委譲された 14 の委員会が設置されるなど、当該短期大学は適切に運営されている。

授業科目の単位計算方法、教員の個人研究費、資産運用等に関する規程の整備が望まれる。

事務部門は事務組織及び事務分掌規則などの諸規程に沿って適切な業務処理が行われている。毎日の朝礼実施など自己啓発促進に意欲的であるが、事務職員の能力向上、業務の更なる改善に向けて組織的かつ具体的なスタッフ・ディベロップメント（SD）活動を推進する体制作りが期待される。

就業規則にのっとり、人事管理は堅実に行われ、事務局長をはじめ事務職員が教授会や各種委員会に参画するなど、教員と事務職員との連携を図っている。

評価領域Ⅸ 財務

定期的な策定計画はないが、理事会の下に法人経営健全化検討委員会を設置し将来構想策定を推進している。会計処理は学校法人会計基準及び学校法人峯徳学園経理規程、学校法人峯徳学園経理規程施行細則に基づきおおむね適切に処理されている。監事 2 人は学校法人業務全般を監査し、公認会計士とも適切に連携している。財務情報は広報紙「キャンパスライフ（夏号）」に掲載、平成 22 年度からウェブサイトにも掲載し広く公開している。

財務状況は、過去 3 年間とも短期大学部門は支出超過であるが、年々改善傾向にある。また学校法人全体は収入超過であり、長期借入金もなく財務体質は健全である。財政状態をよく掌握し、一層の健全財政構築に向け経営努力がされている。

施設設備に関する基本的規程は整備され適切に管理されている。法令等に基づく定期的な専門業者点検、夜間・休日の守衛による構内外の巡回・警備が行われている。冷暖房の使用時期及び温度設定の適正化を図り、教室内の照明等の節電にも努めている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価及び第三者評価受審を重要なものとして位置付け、2 年に 1 回、自己点検・評価の実施を規定している。自己点検・評価報告書は学内全教職員に配布され、情報メディアセンターにおいて閲覧に供されている。

また自己点検・評価作業に際しては各委員会委員長等にも協力を要請し、短期大学として一体感のある点検・評価となるよう配慮し、教職員全員が改善努力の主体者として関心を持つよう心掛けている。

相互評価や外部評価は実施されていないが、その重要性は認識されており今後の課題ととらえている。自己点検・評価や第三者評価の評価結果を真摯に受け止め当該短

期大学の改善向上につなげたいという意欲がみられ、今後の当該短期大学運営に期待したい。